

Global and Innovation Gateway for All

GIGA 通信

-児童生徒1人1台端末の日常的な活用に向けて-



発行元

佐野市教育センター

佐野市上羽田町1134番地1

電話 20-3108

20-3048(相談専用)

昨年度末の児童生徒1人1台端末の整備、また各校を会場とした「G-suite for education」研修では大変お世話になりました。

さて、いよいよ全国の小中学校で、GIGAスクール構想の実現に向け、児童生徒1人1台端末の本格的な活用が始まります。端末の活用については新聞等、多数のメディアで取り上げられ、国民の関心も高くなっています。先日、「1人1台端末の活用に関して、市町間あるいは学校間で格差が生じる恐れがある。」といった新聞記事も目にしました。

佐野市においては、「どの学校においても日常的に端末の活用が図られること」を目標に教育センターを中心に1人1台端末の活用支援を行う予定です。その一環として、この「GIGA 通信」を発行することといたしました。各校で行われる数々の端末活用の様子をこの紙面にて、市内の全教職員にお伝えできればと考えております。各校の取り組みが、佐野市全体の取り組みとなり、GIGAスクール構想の実現が図られますことを願っております。今回は、配備直後から端末を利用した佐野小学校の事例を紹介いたします。

『朝の学習で、端末の日常活用』

(佐野小学校での活用の様子)

佐野小学校では、昨年度から朝の学習の時間に道村静江さんが考案した※「唱えて覚える漢字指導法」を取り入れています。昨年10月にコンテンツがオンラインシステム化されたことから、教育用のタブレットを利用した取り組みとなりました。台数にも限りがあることから曜日指定した状況での利用でしたが、1人1台端末が導入された3月からは、朝の学習の時間に全校一斉で1人1台での利用を行っています。

早い時期から、タブレット利用になれていたことから1人1台端末導入後の活用についても

児童主体で活用をすすめているとのことでした。昨年度末、2年生が活用している様子を見せていただきました。



保管庫の前に整列し、自分の端末を児童が個々に取り出し、先生の指示がなくても児童は端末にログインし、アプリケーションの起動を難なく行っていました。担任の先生(当時)から「利用は児童に任せています。操作でわからない時は児童同士で解決しています。クローム端末の使い方はまだわからないことが多いので児童と一緒に覚えたいと思います。」とのお話を聞くことができました。

校長先生(当時)から「学級によって利用頻度は違いますが、本校では端末を使えるところから使うように話しています。漢字に関していえば間違いなく力がついています。」とのことでした。

佐野小学校では今年度も、朝の学習で日常的な活用を図っています。漢字以外での取り組みにもチャレンジするとのことでした。多くの成果が期待されます。(文責 教育センター所長)

※は出流原小、常盤小でも取組中です。

「チーム学校」としての端末活用を自薦・他薦を問わず、お知らせください。取材の上、本紙にてご紹介させていただきたいと思っております。

~教育の力で佐野市を元気に~

「やる気」と「不安」に応えます。